

樽一物語 創業から発展期へ～その1

樽一が高田馬場で創業したのは昭和43年12月。

昭和40年11月から昭和45年7月までの57カ月という戦後最長の「いざなぎ景気」の真ただ中であり、GNPが西ドイツを抜いて資本主義国内でアメリカに次ぐ2位となった年でもある。戦後の第一次ベビーブームに生まれた世代、いわゆる団塊の世代が社会人になりはじめ、東京の街にはサラリーマンがあふれ、サラリーマンの給料も右肩上がり。巨人が日本シリーズで勝ち続け、相撲では大鵬が全盛期を過ぎつつあったものの横綱として優勝と勝利を重ねていった。

洗濯機、冷蔵庫、白黒テレビの家電の三種の神器は多くの家庭に普及し、カラーテレビ、クーラー、自動車の新三種の神器が数年後に普及し始める時期にもあたる。日大闘争などから学生運動が広がりはじめ、三億円事件が年末におきるなどの戦後史においてインパクトのある出来事も多い年でもあったが、とにかく日本に勢いがあった時代であった。

豊かな日本が目前にきているという感触を多くの人がかみつつあった。

そんな時代に、サラリーマンをターゲットにし、うまい酒と肴にこだわって、他の居酒屋とは一味も二味も違う「樽一」が開店した。このような勢いのある時代にマッチしたのだろう。「樽一」一号店にはサラリーマンが集まり始め、人気店になっていった。

日本が右肩上がり成長していくのと軌を一にするように。